

足立区基本構想審議会 第3回経営改革専門部会 会議録

日 時 平成27年11月5日（木曜日） 午後2時から4時

場 所 足立区役所南館8階庁議室

出席者 足立区基本構想審議会 経営改革専門部会委員（8名）

田中隆一委員、足立義夫委員、近藤勝委員、石橋穠治委員、

北川千恵子委員、ただ太郎委員、くぼた美幸委員、ぬかが和子委員
事務局 基本構想担当課長、経営戦略推進担当課長、基本構想担当係
長、(株)地域計画連合

オブザーバー 政策経営部3名、総務部2名、資産管理部2名、福祉部1名

議題等 1 意見交換

（1）将来像 まとめ

（2）将来像を設定した根本となる考え方（基本理念） まとめ

2 事務連絡（次回の予定）

資 料 【資料 経⑤】経営改革専門部会 課題整理及び将来像等検討シート

1 意見交換

基本構想担当課長：足立区基本構想審議会、第3回経営改革専門部会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日のオブザーバー出席ですが、政策経営部・総務部・資産管理部・福祉部の職員です。なお、本日は会議室の都合上、壁際にホワイトボードを配置させていただいております。見づらくて申し訳ございません。また目の前にディスプレイがあり、時折りついたり消えたりいたしますが、意見交換の内容などを適宜表示させていただきたいと思います。それでは田中部会長に進行をお願いしたいと存じます。

田中部会長：こんにちは。本日は第3回の経営改革専門部会の最後の回でございまして、次回は今日まとめたものを全体会に持ってゆき、全体会で議論をしていくという作業になります。そのため、専門部会での集まりは本日が最後ということになりますので、引き続き活発なご議論をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは審議に入る前に、配付資料の確認を事務局からよろしくお願いいたします。

基本構想担当課長：事務局から本日の配付資料の有無を確認させていただきます。最初に本日の次第です。続きまして、A3版の資料経⑤と表示の経営改革専門部会課題整理及び将来像等検討シートです。こちらは前回配付のものの内容を更新したものです。最後に、委員の皆様には参考として、前回の会議録を配付してございます。31ページございます。資料に不足はございませんでしょうか。以上です。

田中部会長：どうもありがとうございました。それでは早速ですが次第の1番の意見交換に入ってまいります。意見交換としてまず（1）は将来像のまとめということで、（2）は将来像を設定した根本となる考え方、基本理念ということで二つに分かれております。初めに資料について事務局からご説明をいただけますでしょうか。

基本構想担当課長：それではA3版の資料経⑤と表示の経営改革専門部会課題整理及び将来像等検討シートをご覧ください。前々回・前回と意見交換をしていただいた内容を基に、論点などを整理したものです。一番下は、区民あだちサロンや中高生ワークショップで出された補足となるような意見です。その上で、部会としての将来像、こちらは区のあるべき姿です。そして基本理念。こちらは将来像を設定した根本となる考え方です。これらを本日まとめていた

くための案としてたたき台をお示ししました。なお、将来像や基本理念については、12月以降の全体会で他の専門部会の案と改めて調整や取捨選択等をしていくことになりますので、本日固まりきらなかった場合には、最低でもキーワードや考え方で重要な点を残していただきたいと存じます。また資料経⑤は、本日のご審議の後に再度更新することになりますが、意見交換の内容を区民の皆様にも知っていただくため、基本構想審議会の中間報告のようにして、ホームページ上で公開したいと存じます。時期は四つの専門部会分をまとめる関係上、11月下旬以降を予定しております。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。全体の内容については、株式会社地域計画連合より説明させていただきます。

地域計画連合：前回の振り返りをしつつ、まとまった案についてご説明したいと思います。まず前方のこちらの1枚。第2回専門部会の記録になっております。このとき、将来像や基本理念につながるキーワードとして皆さんからいただいたものが緑の大きな部分に記載されています。例えば、住民力が活きる、地域力や地域貢献のうち、地域貢献というのは、それぞれの立場で地域に貢献するという視点を持って行動しなければならないといったご意見でした。また、幸せを感じられる、あるいは地球にやさしいといった意見もございました。さらに、新しく出された視点としましては、自立や連帯といったキーワードが出されました。前回、協働と連帯の違いの説明があったのですが、協働はあるテーマについてみんなで一緒にやる。連帯は心情的に相手を信頼しながら一緒に取り組んでいくといった心の持ち方を示す言葉として皆さんからご提案がありました。連帯という言葉を使うことによって、区民も区を応援する気持ちを持つ、あるいは痛みを伴う改革も区民も一緒にやるといった意思表示がなされました。また、新しい視点として、外に開かれたまち。こうやって外の力も取り込んでいこうといったご意見が出されています。

こちらを踏まえまして、皆さんの目の前のスクリーンに表示の資料⑤。お手元のA3の資料の右側と同じ文章になりますが、一つ目が住民力が活きる。区民が誇りを持ち幸せを感じられるまちとあります。まずこちらは前回のたたき台では、貧しくても区民が誇りを持ち幸せを感じられるまちとなっておりまして、皆さんから貧しくてもというのは適切でないだろうということで、委員の方からご提案がありました「住民力が活きる」をこちらにつける案を採らせていただきました。その説明文は全面的に変えてあります。足立らしい魅力と人情味があふれるまちの中で、一人ひとりが力を発揮し、誇りを持って足立区に住み続けることができるまちを目指しますと変更しました。

2点目の新たな視点や発想を持ち、足立区独自の魅力をつくりあげるまちについて、タイトル自体は前回と同じ内容になっておりますが、中小企業や新たな活力を生み出す大学などといったキーワードが前回出されましたので、そう

いったものを盛り込み、さらに次世代を担う若者世代が定住したくなるような魅力という形で付け加えております。

3点目が足立区の強みを内外に発信するまちです。タイトルの変更はございませんが、国内外や外に開かれたという言葉がございましたので、国内外から観光客が訪れ、さらに、足立ファンという言葉を用い、外に開かれて仲間を増やしていくようなイメージを事務局で付け加えさせていただきました。

4点目は、もともと住民力を活かした多様な主体が協働しながらというような文章だったのですが、新たに自立と連帯というキーワードを使いまして、自立と連帯による健全財政のまちということを掲げております。これから訪れる厳しい財政局面を乗り越えるために、一人ひとりが区政を応援しつつ共に未来を築いていこうといったメッセージを出しております。

全体を踏まえ、皆さんの中で根本にあるものは何だろうと考え、基本理念として今回、足立愛という言葉、それから地域貢献・地域重視という言葉を使わせていただいております。足立愛は、誰もが足立区を良くしたいという思いが一緒に、そういった人たちが愛着を持って居場所を見つけ、みんなで地域の持つ資源を育てていくといったことが重要なのではないかという意味合いです。もう一点が、先ほど説明しましたが地域貢献については、それぞれ足立区に関わるすべての人が、それぞれの立場で自分のためだけではなく、地域のために何ができるかといった視点を持って行動することが大事なのではないかということでこういった言葉を使わせていただいております。

田中部会長：ありがとうございます。ただいまご説明がありましたように、資料経⑤は、第1回、第2回の議論を踏まえて、その議論をまとめていただいた資料ということで、こちらに皆さんの発言が反映されているということでございます。これは自分が言ったことだなというのが分かればよいのですが、そうでない場合には、キーワードとして落ちている可能性があります。本日は将来像と基本理念をまとめていく作業となりますが、こちらに提示されたたたき台を出発点として、自分の言いたいことが十分に反映されているかどうかをチェックしていただくことからスタートしたいと思います。

まず（1）の将来像について、ご説明がありましたように、足立区の将来像はあるべき姿ですので、現状の課題からスタートして、将来どのようなまちであるべきなのかについて皆さんの意見をまとめていただいたものでございます。見ていただくと分かるのですが、四つの点すべての言葉の最後は〇〇なまちということになっております。足立区はどのようなまちであるべきか、どのようなあってほしいのかということでまとめた文言となっています。

それぞれ私がこの4点のまとめを見て思ったのは、基本理念から返ってみると、住民力と、自立、連帯はかなり近いような話なのかなという気もします。あとは足立区独自の魅力をつくり、それを外に発していくということも、基本

理念の足立愛からやってくるようにも読めます。資料を読んでいただいて、率直な感想、あるいはこのキーワードが入っていないといったことについて活発にご議論いただければと思っております。それではご自由に、お気付きの点があれば挙手の上、記録のためにお名前もよろしくお願いいたします。

北川委員：最大公約数で取っているので、自分の意見が反映されているかどうか分からないというのが感想です。経営改革専門部会の案ということで出すと思うのですが、全体の会議になったときに、経営改革専門部会にいた人は大体の経緯は分かっている、他の三つの部会の方は、これらがどのようなところから来ているというのが少し分かりにくいと思います。具体的な話もある程度出たのですが、それを一緒にくっつけて議論の俎上に上がるのでしょうか。

田中部会長：いかがでしょうか。

基本構想担当課長：今後の流れの説明となりますが、ご覧の資料経⑤を他の部会の分も含めて更新をしていき、12月2日、全体会の前にまずは4部会分皆様方にお配りしたいと思います。12月2日に各部会長から、また一堂に会したときに、個々の説明は厳しいのですが、紙で配付した上で趣旨を説明させていただきたいと思います。全体的なお話になってしまうところもありますが、そういった説明で取りまとめに入っていただく予定です。

田中部会長：私がまとめの案を全体会で報告させていただきますので、その際にできるだけ、こういった経緯でこのような議論が出て、このような言葉が出てきたということを時間の許す限り伝えることができればと思っております。

北川委員：それに付随してもう一点質問させていただきます。各部会の会議録は後で回ってくるのでしょうか。それらを読めば、理解した上で今後の会議に臨めるとは思うのですが、そのようなご予定はおありでしょうか。

基本構想担当課長：各部会の会議録もございますので、12月2日までの間に期間が短くて申し訳ないのですがご用意してお送りしたいと思います。

田中部会長：他にいかがでしょうか。今後どのように進めていくのか、あるいはこちらを読んでどのように思ったかという率直な感想からスタートしてもよろしいかと思いますが、何かございましたらよろしくお願いいたします。

石橋委員：質問ですが、足立区の基本構想に関連して、23区の基本構想の現状、改定がどのように行われているのか少し調べてきました。23区全体で、

基本構想の中で挙げられている基本理念、及び将来像の二つについて各区がどんなことを書いているか見てきました。足立区の基本構想、特にこの将来像が他の区と少し違う、あるいは少し変わったところがあります。まず基本理念について、現行の話ですが、協働で築く力強い足立区の実現が基本理念となっており、その下に将来像として三つ挙がっています。形容詞がありますが、後ろだけ言うと、生活都市、安心都市、文化都市という三つの将来像を挙げています。23区の構想の将来像を見ると、大部分が1テーマです。緑輝く〇〇、あるいはみんなでつくる伝統・未来のまちのような大きなもので挙げています。足立区の場合、当初から、現行のもので三つ挙がっています。

この部会のテーマを見ると、経営部会だけで既に四つ挙がっています。他にも部会があるため、同じように挙げるとすると、多くの将来像が羅列されるようになるのではないかという気がしました。最終的な取りまとめはどのような方向で行われるのか教えてください。

基本構想担当課長：皆様からたくさんご議論をいただいて、各部会ごとに将来像を三つ四つ挙げていただいております。これを全体会で $3 \times 4 = 12$ というわけにはいきませんが、一つとはこだわらなくてよいと思います。いずれ全体会で皆様からまとめの作業をお願いする中で、適切な数にしていただければと思います。その際にまたご協力お願いしたいと思います。

田中部会長：現時点で経営改革専門部会から四つの将来像が出ておりますが、重複していると思うようなところがあれば、絞り込んでいくことも本日の作業として考えられますし、この四つということであれば、それを全体会に持って行ってそこでまた議論をすることになると思います。全体会では、すべてが採用されるというわけではなく、いろいろと議論を積み重ねた上で、どの文言を残していくのかをまた議論する場所がございますので、おそらくこれからもう少し絞り込んでいかれるのではないかと思います。

たたき台としては四つですが、本日は経営改革専門部会としていくつとすることについて、例えば三つ、二つに絞り込むことが可能であれば、本日そういった議論ができればと思っております。いかがでしょうか。

ぬかが委員：率直な感想と意見を申し上げたいと思います。結論として例えば将来像がこの四つとなれば、それはそれだろうと思うのですが、私自身は少し違うと思っていることを申し添えさせていただきます。

あるべき姿の自立と連帯による健全財政のまちというのは非常に分かりづらいと思います。今の足立区政の現状について、全国の水準から見たときに、例えば財政の指標で言われている財政の弾力化を示す経常収支比率が8割を割っている自治体は23区では当たり前なのですが、全国水準から見るとものすご

くよいわけです。それから、そのような中で基金総額が1, 190億円あり、区側から言えば使い道は全部決まっていると言いますが、決まっていないものも300億円ぐらいあります。そうだとすると、その基金の額が1, 190億円あるという水準は全国で見ればトップクラスで、23区でも2番目に高くなっています。基金があるのはよいことなのですが、水準を調べて驚いたこととして、足立区が持っている基金の金額は、宮城県全体の水準よりも多いことです。そういった状況において、自立も連帯もよいし、健全財政も当然なのですが、それが何か組み合わさったときに少し違和感を持ちます。

先ほどの説明でもあった痛みについて、必要なときに痛みを分かち合うというのは当然のことだと思っているのですが、その痛みが23区で見たときにどうなのかというのを見ると、国民健康保険料は23区一緒ですが、介護保険料も保育料も23区ではとても高い方、つまり負担が多い、痛みが同じ所得の場合に多いような水準の区になっているという状況です。そして、例えば無料原則の公民館も、これも痛みの分かち合いと言えそうですが、足立では全部有料で、行政水準から見たときに、そのような痛みの分かち合い、健全財政のようなところを強調しすぎると、逆に本来の多くの人々が足立に住んでいて良かったと思える姿とは違ってくるのではないかと思います。ただ、結論としてこれで送りましょうとなれば、どうこう言うつもりはありませんが、感じたことを申し上げておきたいと思います。

それから、基本理念についてですが、表現で見ると今までの議論を積み重ねたものを最大公約でやってくださったのだなというのはよく分かるのですが、このキーワードの二つの文字になると、やはりなぜか違和感があります。何が違和感の原因なのだろうとずっと考えていました。足立愛、地域貢献・地域重視のように積極的に発言をされる取り組む側からすると当然であると思うと思います。ところが、基本構想・基本計画に基づいて足立区全体でこれを理念としてやっていきますということで区民に示されたときに、足立愛を行政から言われたくないのではないかなと感じました。それから、地域貢献・地域重視も行政から言われるのではなく、湧いてきてみんなでやりたいことなのではないかと思います。事務局サイドから出されたということが、私が違和感を覚えた原因ではないかと思います。それに何か代わる表現があるのかと言われると、なかなか浮かんでこなかったもので、発言もためらっていました。ただ、そこに書いてある解説の文章などを見ると、今まで議論してきたことをうまく取り込んでくださっているというのも分かっているので、余計に悩ましいという思いを持っております。

田中部会長：足立愛というのは、ある意味最大公約数、つまりできるだけいろいろなことを含んでいる言葉なのですが、足立愛という言葉を見たときに、確かに少し重たいと感じました。ただ、言いたいことはこのようなことだと思い

ます。そのため、こちらに代わるキーワードについて、お知恵をお貸しいただけないでしょうか。

近藤委員：話が元に戻るかもしれませんが、地域貢献や地域重視などで、では若い方々が何をやればよいのだろうかと思ったときに、今私が感じているところは、どこの地域でも町会というのがある中で、町会という言葉が今まで出てこなかった感じがします。若い方が町会を古い組織のように思っているためか、町会も役員のなり手がいないことでどんどん衰退している気がします。

やはり町会の魅力のようなものをもっとアピールして、若い人に理解してもらうようにしなければいけないということもあると思います。また、今お話が出たように、若い人に地域貢献と言っても、町会に代わる新しいものができるのか、また、では若い人の地域貢献として何をやればよいのかと思ったときに、町会があります。ただし、今は新しいマンションなどで町会費を払わないという話も聞きます。そのあたりも漠然としているため、若い方はとりあえず町会で頑張ってくださいというものがあるとよいのではないかと感じます。

田中部会長：地域はいろいろな捉え方があると思いますが、町会というのも一つのキーワードだとは思いますが、他にいかがでしょうか。

足立委員：自分は実際に町会長をやっています。自分の町会は2，200世帯ありますが、町会費を払っている方はよくて3分の1です。新しい方のところに行くと関係がないと言われてしまいます。先日、10月1日にありました国勢調査でも全然見向きもしない人がいます。国勢調査で足立区や日本のことが分かりますと言いますが、それで分かるのでしょうか。不思議で仕方ありません。

今回は郵送で受け付けるということで、いないところでも会えない人にはポスティングをし、あとは区に郵送してくださいとしています。5年前は自分の町会の調査員が責任を感じて、夜行ってもおらず、朝行ってもいないため見張ったそうです。そうしたら、警察にストーカーということで電話を掛けられてしまい、とても困った思いをしたという出来事もありました。実際に今、3分の1という状況であることは、新しく入ってきた住民が町会費を払うのがおっくうなのか、それとも町会にお世話にならなくてもよいということなのでしょう。災害対策にしても、避難訓練にしても、皆で毎年1回やっていますが、来る人はほとんど役員だけで、一般の人は出てきません。いざ、発災したときにどのように対処できるのか、それも不思議で仕方がないです。このようなところでもやはり心のつながりが欠けているのではないかと感じて危惧しているところです。

田中部会長：将来像と、地域貢献・地域重視という基本理念を分けて議論しよ

うと思っていたのですが、どちらも関係していることですので、総合的に話をしていくということでもよろしいかと思います。地域貢献・地域重視が非常に重要だということは、ある程度合意が取れているような感じもします。1点目の足立愛も、必ずしもこれと別々の話ではないような気がします。つまり、足立区に対する愛情というものを持って、良くしたいという気持ちから地域貢献や地域を重視していくという姿勢が出てくるのだと見ると、必ずしも二つ別々のものというわけではなく非常に密接に関係していると思います。

それで将来像に戻ってみますと、将来像を4点挙げていただいているのですが、先ほど冒頭に申し上げたように、例えば足立愛であれば、住民力の話が関係していますし、当然ながら協働、連帯、自立といった観点からさまざまな魅力をつくりあげたり、内外に発信していくということもすべて関係していますので、それぞれ分けて一つひとつを見ていくというのはなかなか難しいわけですね。

ただし、本日はこの将来像、あるべき姿について、四つは多いのではないかというご意見もいただきましたので、もし重なるようなところがあれば集約していくことも可能だと思います。むしろ、それぞれの論点のところに入っていないキーワードを見つけた場合には、追加していくこともできると思います。もう一度四つの将来像について皆さんのご意見をいただければと思います。

ぬかが委員：そのような点で言うと、この2と3はスローガンで行くと一緒になり得ます。新たな視点や発想を持ち、足立区独自の魅力をつくりあげ、その強みを内外に発信するというのは、一緒にしてもよいような気がしました。

田中部会長：そこはかなり近い印象を持ちました。

くぼた委員：ぬかが委員がおっしゃったようなところは私もそうだと思います。三つ目に書いてある国内外から観光客が訪れるという点は前回も出たかもしれませんが、いわゆる2020年を目指して、これからの部分も含めて、区として発信力を持って、そういった外国からの方々も受け入れを頑張ってもらいたいという希望があるかと思います。その前段の部分で、もともと足立区が持っている中小企業、また新たな活力を生み出してくる大学が六つ目も見えてきた中で、そういった多様な主体を活かしていくかということが、大きな意味で今後の足立区の一つの活力エンジンであると思います。この辺をベースにしながらキーワードをつくりあげていくことが非常に大事だと思います。

くぼた委員：2点目と3点目はかなり近いのですが、国内外から観光客が訪れるというのは、まさに2020年を見据えた上での話になるかと思います。

4点目の自立と連帯による健全財政のまちについて、いくつかご意見やご議論があったかと思います。事務局からのご説明にもありましたように、連帯は協働ではなく、あえて連帯ということでした。協働ではなく連帯という言葉で現在たたき台が出てきていますが、自立と連帯という視点については、前回の会議のときに石橋委員からいただいたご意見を反映していると思います。自立と連帯による健全財政のまちという将来像について、何かまた改めてご意見やご感想等があればお願いします。

石橋委員：感想は前回述べたことと同じです。私の意見がこちらに取り上げられたのかなと思っております。こちらにこだわる気はありませんが、この経営改革専門部会として最後まで残すとすれば、こちらが本来のものなのではないかと思います。その他のものは、まちづくり部会、女性や子ども等他の分野などとのすり合わせで文言が変わってくる気がします。最初に現状で示された高齢化、生産年齢層の減少の中で、今回なぜ基本構想を見直す必要があるのかを考えた場合に、経営改革専門部会として連携が一番のポイントだと思います。それ以外は、あまりここ10年、20年で変わるという話ではなく、問題になるような急激な変化もそう大きくはないと思います。初めに示された年齢構成が非常に変わっていき、高齢化が急速に進むということがあるため、基本構想の将来像、足立区の将来像を見直す必要があるのではないかという気がしています。

むしろ、基本構想をそれほど度々変えるものではないのではないかと思います。先ほど言いましたように、23区の状況を見ると、半分以上の区が改定などしていないわけです。基本計画はいろいろ変えていますが、将来像や基本理念というのは変えていません。ただ、他にも変えた区があるため、足立区でも変える価値があるとは思いますが、そうすると近い将来像で一番問題視しなければいけないのは、日本全体がそのようになっていますが、先ほど言いました年齢構成の急速な高齢化です。先ほど言われましたように、東京都は交付金がありますから、他の一般地方自治体から見ればまだ余裕があるかもしれませんが、こちらもちょうど10年、15年先にはどうなるか分からないと思います。私は健全財政というのが非常に重要だろうという気がします。

田中部会長：確かに健全財政のまちというのは、2番目と3番目は一つにまとめるとするならば、1点目、2点目とは若干違うテーマですので、残しておくことは考えられるかなと思います。今までの議論で、例えば2番目と3番目のポイントをまとめるというお話も出てきましたので、それを画面上で確認はできますでしょうか。

地域計画連合：三つの分野に分けて説明します。感想等のお話と、将来像のお

話と、基本理念の話の三つに分けました。最初の感想については、最大公約数の中で自分の意見が分かりにくいという意見。議事録を見せてください、他の部会のものも見せてくださいというご意見。将来像を補足する説明を全体会で行うのかというご意見。あとは他の２３区の策定状況を見ると、将来像というのは１テーマでやっているというご意見。あとは痛みという点で言うと、介護保険料や保育料は結構高いのだというご意見がありました。

次に将来像については、四つでは多いのではないかとご意見。あとは将来像の二つ目と三つ目。新たな視点や発想を持ち、足立区独自の魅力をつくりあげるまちということと、足立区の強みを内外に発信するまちの二つは一つにまとめられないかというご意見がありました。まとめてみると、二つ目の新たな視点や発想を持ち、足立区の魅力をつくり発信していくまちといった表現になるのではないかと考えております。また、３本目は２０２０年への対応のお話だということと、あとは自立と連帯による健全財政のまちというキーワードについて違和感があるというご意見もいただいています。また、経営改革専門部会で残すとしたら、４本目の自立と連帯による健全財政のまちを残すべきで、他の３本については他の部会とのすり合わせもあるのではないかとご意見がありました。

最後に基本理念についての話をまとめたいと思います。キーワードについて二つの文字となってしまうと違和感があるということと、足立愛という表現ですが、区から足立愛をよろしく願いますと言われるのは違和感があるというご意見をいただきました。足立愛という言葉は少し重いという部会長からのご意見もいただきました。地域貢献については、町会が衰退しているというご意見でした。このほかに、町会の加入率が低いということで、その地域貢献ということできくと、町会の問題がネックになるだろうというご意見。あとは足立愛で地域貢献・地域重視については関連しているのではないかとご意見をいただきました。皆様のお話を端的にまとめさせていただきますと、このような形になるのではないかと思います。

田中部会長：将来像が最初は４点あったわけですが、２番目と３番目はまとめる方向で考えるということで、しかも今案をご提示いただきましたので、それで大体内容はカバーできているという感じがします。こちらはまとめていくという方向でよろしいのではないかと思います。

１点目と最後の自立と連帯による健全財政のまちの２点について、変えた方がよいのではないかとご意見があればお願いします。

北川委員：先ほど石橋委員からのご意見がありましたように、財政についてどうするかというのは、この部会のミッションの一つでもあると思いますので、このテーマは残した方がよいと思います。ただ、私はあるべき姿というのは、

読んだだけで具体的なものがイメージできる方がむしろよいと思います。最大公約数で漠然としていると、議論に参加していない人、特にホームページで見る普通の区民には伝わりにくいのではないかと思います。財源を確保し、というところまではよいのですが、一人ひとりが区政を応援するというのは一体どういうことなのかについて、議論の場にいなかった人は何をすればよいのか分からないということになりますので、具体的なことを入れるか、あるいはない方がよいと思います。

他の部分もそうなのですが、大学が来るといったことはイメージがしやすいのですが、曖昧な表現というのは、将来像としてイメージをつくりにくいのではないかというのが私の意見です。

田中部会長：具体的であった方がイメージしやすいということですが、では例えば一人ひとりが区政を応援するということはもともと前回の議論から出てきている話だとは思いますが、いかがでしょうか。何をやれば一人ひとりが区政を応援しているのでしょうか。

北川委員：私が記憶している範囲では、税金をきちんと納めるようにしようといった話もありましたし、節約できるところは節約するといった話もあったと思います。先ほどぬかが委員が少し違和感があるとおっしゃっていた、その痛みをどうするかということを含んでいると思います。要するに足立区に住んでいる人が稼いでくるか、お金を出すか節約するかするべきだということだったと私は記憶しています。

田中部会長：確かにそうですね。自立と連帯、健全財政はすべて重要ですが、やはり痛みに応じる、あるいは応能といった視点が弱いというのが、違和感を感じる元になっているのかなという気がします。ですから、そういったキーワードを一つこちらに入れることによって、できる人は率先してやるというような感じが出せるとよい気がします。いかがでしょうか。何かよいご提案はありませんか。

ぬかが委員：例えば一人ひとりが区政を応援するというのは、決してお金の面だけではないと私などはずっと思っています。だからこういうのは大賛成です。昨日環境審議会というのがあったのですが、率直に言うと足立区は、ごみの出し方をみんなで工夫するだけでお金はものすごく浮きます。そして浮かせてきている部分があるわけです。そのようないろいろなことを、足立区のことをみんなで分かって、そして見える化でこうすればすごくプラスになるのだということが分かることで、実は足立区をみんなが応援できるというニュアンス、要素、エッセンスは、あらゆる分野であるのだらうと思います。お金の問題だけ

ではないと思っていると同時に、多くの区民の方という形で上から目線で行政から言われるのは嫌なので、例えば一人ひとりが区政を応援すると言われるよりは、一人ひとりが応援できる足立区になりたいというような感じを持っています。

あとは部会長が言われているように、確かに応能というエッセンスが入れば全然違ってくるのだろうということから、そこが違和感の元だったのだということを実感しました。

田中部会長：一人ひとりが区政を応援できるというのは、非常によい視点だと思います。そういったエッセンスを入れた文言の案を今後作成いただくことはできますでしょうか。たたき台としてご提示いただいた上で、それについてまた見てみるということではいかがでしょうか。あとは先ほどの2番目と3番目の統合するという話も出ておりましたので、そこに関しても何か代替案があればお願いします。

そうしますと、将来像に関しては、1点目についてはいかがでしょうか。1点目はまだあまり議論をしていませんが。

北川委員：一人ひとりが力を発揮してというのは、今話に出ていた一人ひとりが区政を応援することにつながるのではないのでしょうか。要するに、お金がなければ他のもので協力しますなどです。おそらくそのようなことをイメージしているのでしょうか。

田中部会長：確かに近いですね。

北川委員：区民一人ひとりが出せるものを出して一緒にやっていきたいと思いますという点では、1と4は同じものが流れているような気がします。

くぼた委員：どちらか一方にした方がよいかもしれないですね。

ぬかが委員：スローガンではなく、解説文が重複しています。そこは少し工夫が必要でしょうね。

くぼた委員：確かにそうだと思いますので、どちらかに統合した方がよいと思います。やはり住民力というのが一つのキーワードになってくると思っておりま。す。昨今、先ほど足立委員がおっしゃったように、町会の加入率の問題もそうですし、さまざま地域の絆というのがずっと言われています。ただ、1点東日本大震災を経験した際に、隣に住んでいる人の顔が分かったとか、見えてきたとか、どこの誰だったのかといったこともあの震災がきっかけに一つの経

験値にはなっている部分もあると思います。

あとは関係があるかどうか分かりませんが、例えば地域コミュニティを具体的に感じられるようになることについて、独身の男性がコミュニティを感じるのはなかなか難しいのですが、具体的に結婚をして、また子どもが生まれて保育園や幼稚園に通うようになると、地域のママ友ができたり、公園デビューをしたり、あとはそこに運動会などがあるとパパがそこで場所取りをするために朝から並んだりしますから、そのようなことが一つのきっかけになってくることが非常に多いのかなと思います。

やはり子どもを通して地域コミュニティというのが一つ形成されてきて、その上で30代、40代の人たちがせっかく地域に住んでいる、近くに住んでいるのだからといったことでバーベキューをやったり、ドライブをしたりといったコミュニティが具体的に生まれていますので、町会、自治会だけを考えると若干悲観的になりますが、そうではない新しいコミュニティというのも、子どもや学校を通して生まれてきているということが含まれてきています。人情味あふれるまちの中に、そのようなことが含まれているのではないかと思います。トータルして考えていくと、やはり住民力というのが決してないわけではないという部分も含まれると思います。このあたりのニュアンスは非常によいのではないかと、個人的には思います。

田中部会長：住民力が活きるというところが非常に重要だと思います。他に1点目に関していかがでしょうか。

足立委員：一人ひとりが力を発揮するというのは、何もお金を出したり担税力があるのみではなく、労力を惜しまずにまちのためにいろいろ協力することが大事だと思います。お金は使わなくても、力を惜しまず発揮するというのを盛り込んでいただければありがたいです。

田中部会長：ここでの議論を見ていれば、それが入っているということが分かるのですが、文言だけを見ると、どこから出てきたかが分かりにくいということに対し、議論に基づいて説明が出てきているということをできるだけ伝えさせていただきたいと思います。あとはここで発言すれば議事録に残りますので、それも一つの伝え方だと思います。

1点目に関しては、こういった形で出させていただくことでよろしいでしょうか。

(異議なし)

田中部会長：では、続いて2点目、3点目を統合した案があればお願いします。

地域計画連合：赤字で表現していますが、２点目と３点目の統合については、新たな視点や発想を持ち、足立区独自の魅力をつくり、発信していくまちということで、つなぐときの表現を工夫しましたが、意味としては基本的には２番目と３番目の意味を統合した形にしています。

次に、４番目の健全財政については区政を応援できるという言葉が出てきました。説明文にはそのような言葉が入っているのですが、キーワードに出す際に、言葉の順番を変えないとおかしくなるので、健全財政があることは当たり前だということを頭に置いた上で、自立と連帯による区政を応援できるまちという言葉をご提案したいと思います。

田中部会長：短時間ですばらしいと思います。いかがでしょうか。まず１点目に関しては変更はなしということですが、２点目については二つの視点をうまくまとめていただいたのではないかと思います。あとは３点目ですが、本専門部会のミッションとしての健全財政を冒頭に持つことで、一番インパクトを強くすることなのですが、それを進めるという下で自立と連帯。あとは区政の応援という視点が入っているというのも、非常にコンパクトで良くまとまっているのではないかと思いますがいかがでしょうか。２点目と３点目をまとめた将来像に関してはこの通りですが、説明文に関しては基本的にはその下に書いてあるものを二つ、そのまま書くということになるかと思います。よろしいでしょうか。

くばた委員：よいと思います。特に３番目ですが、部会長や公募委員がおっしゃったようにミッションでもあるし、ここが大事だと思います。良くまとまっていると個人的に思います。

田中部会長：他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは足立区の将来像、あるべき姿に関してはこの３点ということで全体会に持っていくということでよろしいでしょうか。

ただ委員：自立と連帯による健全財政のまちというのは次でしょうか。

田中部会長：自立と連帯による健全財政のまちが、健全財政の下という三つ目になっています。

ただ委員：一人ひとりが区政を応援できるまちで、区政を応援するとあるのですが、率直に、足立区民が足立区の将来をどのようにしたい、あるいはどのようなまちになればよいかなといったことをまず考える方がよろしいのではない

かと思います。先ほどの町会のお話もそうですが、そこまでしっかりと考えられている方々というのは少ないと思います。というのも、結局考えることというのは今のことなのです。例えばお店をやっている方は、今日の売上はどうか、お総菜を売っているところは、今日のお総菜このぐらいでよいかな、もっと出しておいたほうがよいかな、でも余るかもしれない、どうしようかなと、その日その日を頑張っている方々が大半だと思います。どの職業でもそうだと思います。そのため、言葉も必要だとは思いますが、私は個人的には一人ひとりが区政を応援することで、共に未来を築くまちを目指すということよりも、それぞれ区民の役割を果たしていくということが、結果的には自立と連携による健全財政のまちにつながっていくと思います。

例えば商売も、サービス業もそうですし、子どもができれば、今日病気をしないで寝てくれたとか、その日その日の今の積み重ねが将来につながっていくということになると思います。健全な財政だったり、厳しい財政を乗り越えるためというのも、結局はそれぞれの方々がそれぞれの持っている役割をしっかりと果たしていく。しっかりと納税をして、自立をして生活をしていくというところがポイントだと思います。ただ、さまざまな困難を抱える区民に対する必要な経済的支援というのはもう当たり前のことで、それはしっかりやらないといけません。それぞれの方々が自立心を持ってやっていくことが、結果的には将来の明るい足立区につながっていくと思います。区政を一人ひとり応援しましょうというのは、理想に過ぎないのではないかと個人的には思います。文字であれば、ああ、そうだな、いいなとは思いますが、実際にはそれぞれの役割を果たしていただくことに重点を置くことの方が必要なことだと思います。

ぬかが委員：現状の議会の議論とは少し違っており、ここではあるべき姿をみんなで議論をしているわけですので、そこは配慮しないといけないと思います。

田中部会長：今まとめているのは将来像、あるべき姿ですから、ある意味で理想像を語る場所なのですが、もちろんその理想像を実現するためには、どのようなことをやっていかなければいけないかというのが、今言っていたことというのはまさにその裏にあって、これから何をやっていかなければならないのかということの背後に出てくるものだと思います。ここで議論として残しておくことは重要だと思います。

北川委員：区政を応援できるまちというのは、私も少し違うというか、具体的ではないと思います。応援するというと、傍観者みたいな感じになるので、やはり個々が自立した上で連帯しているというのが理想の将来像なのではないかと思います。自立というのはもちろん援助してもらわないという意味ではなく、その人その人に必要な支援は受けるのですが、でもそれぞれができることがあ

るはずなので、そのような人たちがお互いに連帯をして、区を盛り上げていくといった形にした方がよいと、応援できるというよりも個々が自立して連帯するまちとした方が将来像としてよいと思います。別にないものを出せとかそのようなことではなく、できる範囲でそれぞれ自立した上で連帯するのが大事だと思いました。

石橋委員：この項目はそもそも私が言い出したことが原因だと思うのですが、どのような表現にすればよいかというのをずっと先ほどから考えていて思い浮かばなかったのも黙っていました。応援という言葉について、区民が区政を応援するというのはどういうことなのかという疑問が必ず出ると思います。注書きでもしないと誤解を招くと思います。何か違う言葉に変えないといけないと思います。ただ、どのような表現にすればよいか、的確なものが思い浮かばずにいます。

私が一番感じるのは、足立区が貧乏区であることは確かです。いろいろな問題を抱えています。けれども、だからといってツケ、負債をどんどんつくってまで必要な人に手当てをしていくということをやっていくと、ツケが孫子の代にどんどん送られていくわけです。それは今生きている人間として非常に無責任だと思います。ただ、区がやってくれないからとか、区がやることに對し敵対心を持ったり、あるいは区政を監視するという言葉がありますが、監視は必要といえば必要ですが、監視の裏には敵意を持って見るという要素を私としては受けるわけです。そうではなくて、確かに必要なのだということをみんなが意識の中に持って、やれることは自分でやる。それから、助け合えるところは助け合っていく。そして痛みを我慢していきましょうという雰囲気、区全体としてつくりあげていきたいという気持ちがあります。区がやることに對して、要求や非難ばかりするのではなく、一緒にやっという気持ちなので、具体的に応援となれば、区民にできる応援といえば、選挙で自分の考えに近い人に投票することだけとなってしまいますが、そうではなくてもやるべきことは一緒にやるのだという気構えを持つような区の塊をつくりたいと意味なのです。

よく言われることですが、明治維新の動乱期の日本は、諸外国に比べると非常に貧しく、技術も何もなかったのですが、一人ひとりが誇りを持って、それから勤勉でやろうという気があったからあれだけの成功をおさめました。太平洋戦争が終わったときもそうでしたね。みんな一文無しになって非常に貧しかった。けれども、だから政府がやってくれないからと文句を言っていたかという、やはり一人ひとりが自分の自助努力でいろいろな工夫をして成功に持ってきたわけです。やはりあのような雰囲気を将来の足立区になってくれないう気持ちで私は提案したわけです。だから、この応援という言葉を使うと、何か誤解を受ける気がします。

地域計画連合：今お二人の委員から、応援という文字はどうも違うのではないかというご意見をいただきました。それで急遽二つ案を考えてみました。一つが、健全財政の下までは同じですが、自立と連帯により一人ひとりが区政を考え、行動できるまち、というのが一つ。もう一つは、健全財政の下、一人ひとりが自立し連帯しているまち、というものです。

田中部会長：どちらも非常に魅力的な文章だと思います。今、応援ということで、おそらく二つの案の違いは、区政というものが前面に出ているか出ていないかというのは一つ大きな違いだと思います。どちらの方がもともと思っていたものに近いでしょうか。

北川委員：私が発言したのは4番目になると思います。ただ、自立し連帯しているまちよりも、区政を考え行動できるまちという方が具体的な気がします。今の2案では上の方がよい気がします。

石橋委員：私は逆に一人ひとりが区政を考えというところが少し引っ掛かります。4番目の方が平凡ですが、こちらの方が無難かなという気がしました。

ぬかが委員：確かに4番目は、普通の区民が見たときにスッと受け入れられる感じがして、公募委員が言われたのはもっともだと思います。4番目は分かりにくい言葉が少ないですね。先ほどから議論になっている、では何なの？と言われたいのではないかと思います。

北川委員：一番下が、私が先ほど言っていたことなので、特に異論はありません。

田中部会長：一人ひとりが自立し連帯しているまち、がよいということですね。

北川委員：それは最初に私が言ったのですが、その上の方が具体的なのかなという気がしました。今のご意見も出ているので、それでは最初に申し上げたものでも私は異論はありません。

ぬかが委員：すごく平凡な言葉のようで、よくこの言葉を見ると深いものになる感じがしました。例えば、誰もが自分自身の問題としてであっても、一人ひとりの区民としてであっても、自分の家計も健全財政でいたいし、区だけの問題ではなく、自分自身が健全財政で一人ひとりが自立して連帯ができる。そのようになるというのが、実は足立区全体にとってもよいことで、本当に一人ひと

りに照らしてもそうだし、この部会としての与えられたミッションからの関係でも、なるほどと深い感じがします。

近藤委員：私もやはり区が区民に対して区政のことを考えてくださいというのは、少し違和感がある気がします。先ほどからお話があったように、やはり下の一人ひとりが自立して、自分の役割や職業などをまっとうすることによって、結果的に健全な区政につながっていくということなので、やはり区政を考えるという言葉は入れない方がよい気がします。

田中部会長：それでは今一番下の案でどうかということですが、こちらでいかがでしょうか。

（異議なし）

田中部会長：それでは将来像は3点ということで、一番最後の点に関しては、下の案ということで全体会に持っていきたいと思います。ありがとうございました。

引き続き基本理念です。先ほどから基本理念についても何度かご意見等はいただいているわけですが、具体的にこの二つ。今挙がっているこのたたき台に関して、ご意見等あればよろしくお願いします。

今、将来像が三つ決まったわけですが、それが出てくる元になる考え方というところから、もう一度新たな気持ちで眺めていただけると、何かよい案が出てくるかもしれないのでよろしくお願いします。

ぬかが委員：この画像はペーパーと同じものですね。先ほどのまとまったと言われたものを出していただけますか。

北川委員：基本的なところなのですが、根底にあるのが愛なのかどうかというのが、私には分かりません。ただ、第1回からの流れからすると、足立区にはいろいろ解決すべき課題があって、それを解決するためにいろいろと議論を重ねてきたわけです。愛を持っているかどうかというのは、やはり個人差があるような気がします。ですから、愛のない人はこれを見ると帰属意識を強制するようなものについて異論を持つ人もいる気がします。

それで、共通しているのは、愛があってもなくても、課題を解決したいということなのではないかと思います。基本理念というような高尚なものになると、個々の些末というか、具体的なものというのはどうしてもぼかさざるを得ないのですが、そこに共通して流れているのは愛とは限らないというのが私の意見です。そのため、ここに入るような高尚なキーワードというのは見当たらない

のですが、私の印象としては愛とは限らないということを最初にお伝えして置きたいと思います。

田中部会長：愛というと、愛着なのか愛情なのか、いろいろあると思います。愛着であれば、まだ何となくよいのですが、愛となると愛を強制するのは難しいことだと思いますので、重いかなと感じたのはそういったところからでしょうか。ではそれに代わるような言葉やキーワードが出てくるとありがたいのですがいかがでしょうか。

もう少し平たい感情のない言葉で言うと、みんなが足立区に対して関心を持つということであれば、若干は感情的なものというのは外れるとは思いますが。

北川委員：現状の改善、あるいは現状打破のようなことかなと思います。共通しているのは、山積している課題があって、それを区民の今にとってよい方向に持っていくという点では、改善なのかなと思います。改革とまではいかないですが、そのような大それたことに一歩踏み出すような感じなのかなという気がします。

解決というと、基本理念などの大層なものとしてはインパクトが弱い気がします。ただ、流れているのは今の状態を良くしたいということなのかなと思います。今までの皆さんの発言を聞いていても、そのように思います。

ぬかが委員：ちなみに、基本構想はこれまでに2回変えていますね。それで最初のときが水と何とかのまち足立というのが基本理念だったかなと思います。ときめき ゆとり 水辺のまち足立というのが1回目の基本理念でした。2回目は協働で築く力強い足立ですね。

田中部会長：現在、基本理念としてキーワードが二つ出てきていますが、もう少し文章化することもできるかもしれません。例えば現状の足立愛の最後のところで、足立区をふるさとと感じられる人を増やすまちづくりが重要という点は、先ほどの将来像の足立区に住み続けることができるまちを目指すというところと関係しています。そのような意味では、かなり対応しているという印象は受けます。

1点目は現状の課題を解決することによって、より良いまちにしていこうとそこに住み続けたいと思う人を増やしたいという流れ、感情というものをここに表現していると思います。必ずしもキーワードで一つ出す必要はありません。いくつかキーワードを出していただけると、そのキーワードを用いて、また案をつくっていただけるということにもなりますので、このキーワードは入れた方がよいということがあれば、それを言ういただけるとまた事務局でた

たき台を作っていただくことも可能だと思います。

北川委員：足立区をより良くしたいというのが出ているので、より良い明日を目指すまちなどです。改善というのもそのようなことになるとは思います。あとは先ほどお話をした課題解決というのはいかがでしょうか。もう少しよいのがあるとよいのですが。

田中部会長：ブレーンストーミングで思ったことを言うことが重要です。

キーワードで出すとインパクトが強いので、それはそれで一つ伝わりやすいというところもあるかもしれません。少し強すぎることもあるかもしれないので、先ほど北川委員におっしゃっていただいたような少し長めのものにして文章化するというのも、可能だと思います。

一つ確認で、下書いてある説明文がありますが、このところはおおむね同意でしょうか。

くぼた委員：良くしたいというのは当然あります。

田中部会長：下の説明文はもうこれでよいとして、それに対してどのようなキーワード、言葉、タイトルなどを付けるかという話かと思います。

先ほど北川委員からいただいた案を映していただけますか。

基本構想担当課長：話の腰を折るようなことですが、ご意見をうけたまわりたいものがあります。今、基本理念をご議論いただいて、足立愛、地域貢献のようないわゆる単語が並んでいます。それで、他の部会の紹介になりますが、多様性、一体感、地域力といった単語で整理されてきています。先ほど委員からも協働で築く、あるいはときめき、水辺というようないわば文章のものもあります。これはスタイルの話なのですが、単語なのか、ちょっとしたキャッチフレーズか、20～30文字ぐらいの文章がよいのかといったところで皆様方から率直に教えていただけると今後の参考になるのでお願いします。

田中部会長：いかがでしょうか。どのようなものが伝わりやすいかだと思うのですが。

ぬかが委員：絶対に単語とか、絶対に長いものとかは決められない気がします。今日の議論の経過で見ても、おそらく単語は本当にぴったりでこれだというのがあればそうなるのでしょうけれども、そうはならない場合には、やはりいくつか並んだり文になったりするのではないのでしょうか。どちらかは決められないと思います。

北川委員：私も同じです。やはりぴったりはまるものが今ないと、ある程度若干の説明でもないですが、文章になるのはやむを得ないと思います。

田中部会長：他の方はいかがでしょうか。

基本構想担当課長：ありがとうございました。

田中部会長：先ほどの話だと、他の専門部会では単語が挙がっているケースが多いということでしょうか。

基本構想担当課長：事務局の提案でこういうものかなというものを並べますが、今のところは単語で整理しています。これはあくまでも事務局の提案です。ただ、今後全体会でまとめていく際に、また提案するときには、キャッチフレーズ的なものがよいのか、文章がよいのか、単語がよいのかというところで参考にさせていただきました。

田中部会長：ですから、今回は単語で出してもよいですし、キャッチフレーズのようにになっているものでも構わないということかと思います。例えば先ほどの北川委員からのご提案だと、一つ目の足立愛のところが、より良い明日を目指すまちですか。理念ですからまちではなく、より良い明日を目指すという理念ですね。それに基づいて上の将来像が出てくるとのことなのですが、より良い明日を目指すという案についていかがでしょうか。

ぬかが委員：先ほどから何か発展系はないかなと考えていたのですが、実はこのより良い明日を目指すというのは、ここでの足立愛と地域貢献の両方に掛かっていますね。

北川委員：ただ、愛着ですとか、ふるさとですとか、帰属意識をどれぐらいの人が今持っているのかなというのも少し引っ掛かります。そのような人はもちろんいるし、そうでない人もいて、それぞれに対して特に批判なりをするつもりは全然ないのですが、いろいろな人がいらっしゃるので、帰属意識を持っている人と持っていない人がいる中で、両者に共通しているのは、現状を変える、あるいは現在ある課題を解決するという点だと思うのですが、それが果たして帰属意識につながるのかどうかというのは、疑問だと思います。

それで、そのようなどちらでも共通で目指せるようなものを考えたらよいのではないかというのが私の意見です。

田中部会長：改善したい、あるいはより良い明日を目指すということと、あとは愛着を持つということですか。

北川委員：愛着を持つかどうかというのは、個々によって違うのではないかと思います。なので、どちらの人にも両方とも理解、納得できるようなものが基本理念としてはふさわしいのではないかと思います。特に区から出すわけですから、愛着を持ってくださいというメッセージと受け取られるのもまた良くないかなというのがあります。どちらの人にとっても納得のいくようなものとする、必ずしも愛着とかふるさとというのは入れない方がよいというのが私の意見です。

田中部会長：説明文にも、生まれ育った足立区に愛着を持ちという文言があるわけですが、足立区に愛着を持つと書くのと、足立に愛着を持つというふうになると、またニュアンスが違ってくる気がします。

先ほどからの議論で、区が出すものなので、区が足立区に対して愛着を持ちなさいというのはなかなか難しいという議論が出てきました。でも、足立という場所に対する愛着を持つということは、おそらく良くしたいというところに繋がっていく根源になっている感情だと思います。

だんだんと時間も差し迫ってまいりましたので、収束する方向に議論を持っていければと思いますがいかがでしょうか。

近藤委員：よく小学校の校歌などを聴いていると、わがまち足立という言葉があり、よい言葉だなとも思っているのですが、そのような感じではどうでしょうか。

田中部会長：この二つをまとめることはできないのでしょうか。どちらも非常によい言葉だと思うのですが、わがまち足立というのは、愛情、愛着を持つところを良く表現している言葉だと思いますし、改善していきたいところの一つ目のところに出ていますので、この二つをうまくつなぐことができるとよいのですが。

ただ委員：文面の中に、生まれ育った足立区に愛着を持つ。また転入してくる人が居場所を見つける、あるいは中小企業をみんなで育てていくなど、これはまさに家族ですね。そのため、わがまち足立というところでは、足立ファミリーのような意識です。足立愛よりも柔らかくなるのではないかと思いますのですが。

田中部会長：今のご提案ですと、言葉にするとどういった言葉になるでしょうか。足立ファミリーでしょうか。

ぬかが委員：皆さん思っていると思うのですが、わがまち足立はとてもよいのですが、足立区の今の区歌のタイトルなのです。だから今小中学生は入学式、卒業式や、私たちは式典、儀式で必ず歌う歌がわがまち足立なのです。とてもよい歌だと思っているのですが、そのようなことを抜きに考えれば、より良い明日を目指すとは合併してよいと思います。関係者はみんなが区歌だと思うなと思ってしまいまして、そこで逡巡しているということがあります。

田中部会長：より良い明日を目指すわがまち足立で決まったかなと思ったのですが、なかなか難しいんですね。

ぬかが委員：区歌は不滅だし、大事ですし、それでもよいのではないかと思います。

北川委員：区歌を踏襲しているのだということですね。

ぬかが委員：区歌を踏襲しながら明日へ向かうといった形ですね。

くぼた委員：わがまち足立というのは小学校、中学校で歌うので、みんな知っています。成人式でも歌います。成人式あたりになるとみんな男の人は恥ずかしくて歌わないのですが、でも心の中にはあるのです。あれは一つのテーマになると思います。あり得ると思います。

ぬかが委員：ここで確定ではないので、今までの議論の経過の中で足立愛をどのように表現するのかということと先ほどのものと兼ね合わせると、その上でまた全体会の中で議論したり絞ったりするため、こちらでよいのではないでしょうか。それを踏まえた上で、みんなが愛着を持つことができ、明日を目指す、頑張れるというのはよいと思います。

田中部会長：これは全体会に持っていく案ですから、これがそのままスローガンになるわけではありません。一つ目のものに関しては、より良い明日を目指すわがまち足立でいかがでしょうか。若干長めですが、でも言いたいことはほぼこちらに込められている気がします。よろしいでしょうか。

ぬかが委員：もっと言うと、より良いはひらがながよろしいですね。明日は漢字で。

田中部会長：では1点目はこのように、よりよい明日を目指すわがまち足立、

ということで持っていければと思います。全体会でバックアップのほどよろしくお願いいたします。

もう一点ありますが、地域貢献・地域重視という点です。こちら先ほどから出ている議論を聞いておりますと、ここに書いてあること自体、下の説明のところはさほど異論はないという印象を受けているわけですが、その下の説明を表す文言として、地域貢献・地域重視はそのまま表している気がします。もしご意見があればいただけますでしょうか。

北川委員：地震のときにオールジャパンというのを結構耳にしていたので、オール足立ですとか、チーム足立とかというのはどうでしょうか、と、このような形で一言言えば、委員の皆さんからいろいろ湧いてくると思うのですが。一応突破口ということでご提案させていただきます。

田中部会長：チーム足立、オール足立。地域一丸となってやっていこうという感じでしょうか。地域に対して貢献していくという視点もありますね。

くぼた委員：チーム足立はおそらく近藤区長がよく使います。区長のあだちな毎日とかでも、おっしゃっています。でも、そのような表現はあると思います。全体を含める地域となれば、オールだとかチームという表現は一つの表現になると思います。

ただ、その言葉だけだと、何を言わんとしているのかが分からないので、何かそれプラスワンが欲しいですね。

北川委員：では全員参加はいかがでしょうか。全員の員というのは人間とは限らず、法人のような組織も含めてということで、全員参加です。自然人プラス法人プラス、何かというのでいかがでしょうか。

田中部会長：オール足立、チーム足立、全員参加。もともと地域貢献・地域重視ということだったわけですが、地域というのは足立区のことなののでしょうか、それとももう少し狭いのでしょうか。足立区のことだとは思いますが、そうしますと全員参加で貢献していくということも考えられますがいかがでしょうか。

北川委員：ここに書いてあることは、地域貢献・地域重視なのですが、ポイントとしては足立区に関わるすべての人という点で、私が先ほど提案したものの要約になるのかなというのが先ほどの提案の趣旨です。

田中部会長：一人ひとりすべての人ということですね。

北川委員：そうですね。人間だけではなくということです。

田中部会長：大学や企業やありとあらゆるものということですね。自治会もそうですね。そうしますと、全員参加という、この全員というのは非常に広い全員ということですね。いかがでしょうか。先ほどから全員参加とチーム足立とオール足立というものの順番を入れ替えたりしている感じがありますが、どれもここで言いたいことというのを表現してくれる上ではよいキーワードだという気がします。この中で特にこの方がよいというのがあれば、ぜひご意見をいただけるとありがたいのですがいかがでしょうか。

北川委員：チーム足立と言うと、連帯感を強調したい場合はチームということになるかもしれないのですが、そのようなものを若い人は嫌がる人もいるかもしれませんが、オールということだと、そのような気持ち悪い関係はないので、両方を提案させていただいています。連帯感を強調したいのか、それとも個々の集合体を強調したいのかという違いはあります。

田中部会長：先ほども、健全財政の下、自立と連帯というキーワードが出ていたので、自立につながっていく基本理念としては、やはりチームよりもオールの方がよいのではないかとということでしょうか。

北川委員：そうですね。連携を強調したいならチームだということですね。

田中部会長：いかがでしょうか。

ぬかが委員：素朴な疑問で、例えば先ほど他の専門部会の方で単語を二つぐらいのキーワードで原案と同じような形だったかと思います。それで、この二つ目の足立愛に代わるものをどうするかとうりながら考えて出てきたのが、よりよい明日を目指すわがまち足立です。このスローガンは非常に長くて、二つぐらいのエッセンスが混ざっていますね。よりよい明日を目指すという中には、まさに貢献する、あるいは力を出していくという部分も入っていると思います。それから、わがまち足立というところには、地域意識も育むというニュアンスが入っているだろうと思うと、他が単語で二つだったら、この専門部会はこの長い文章1本で進めるということもあって、無理に二つを出さなくてはいけないのかなとも思うのですが。

つまり、この専門部会で出すものとして、うまくまとまればよいですが、まとまらなければ他では単語二つだけでも、こちらでは長いものを1本だということを出すという選択肢もあり得るだと思ふのですが。

田中部会長：本日の議論の最初のところで、この基本理念は二つ立っているのだけれども、お互いが非常に関連しているのではないかと私は思ったわけで、その感想を述べさせていただいたのですが、今ぬかが委員がおっしゃったことを踏まえると、この二つは一つにまとめることもできるのかなと思います。少し長めのスローガンを一つ掲げさせていただいたわけですが、そちらの内容もやはり地域貢献・地域重視というところとかなり密接に関係していると見て取れますので、例えば一つご提案としては、よりよい明日を目指すわがまち足立というのを1本立てて、説明の部分がこの二つからなるということも一つ案として考えられると思うのですがいかがでしょうか。

北川委員：わがまち足立もよいのですが、よりよい明日を目指すオール足立など、半分ずつ取ることも一つあると思いました。昔風だったら、全員参加でよりよい明日を目指すなどもあると思います。もちろん、よりよい明日を目指すわがまち足立でもよいのですが、後半部分が集約されるようなものがよいとすると、今申し上げたようなものも一つの案としてあると思いました。

田中部会長：例えば一つに集約する、またもう一つ案としては、全員参加でよりよい明日を目指すわがまち足立でいかがでしょうか。

北川委員：それが古くさいバージョンで、よりよい明日を目指すチーム足立とか、オール足立というのものもあるかなと思いました。

田中部会長：そうであれば、二つを一つにまとめることができるということですね。

北川委員：全員参加というのを盛り込むとすると、先ほどの区の歌と同じではないかというのも解決する気がします。

近藤委員：わがまちというのは愛を感じるのです。オール足立というのには愛は感じないかなと思います。

田中部会長：では、このところで二つの論点が残っているわけですが、よりよい明日を目指すわがまち足立というのは残すという方向で進めます。

ぬかが委員：文章は二つあってもよろしいと思います。

田中部会長：一つのスローガンがあって、その下に二つあるという形でもよろしいでしょうか。

基本構想担当課長：全く問題ありません。

田中部会長：ではそのようにするということがでしょうか。

（異議なし）

田中部会長：それでは基本理念として、よりよい明日を目指すわがまち足立で、下の説明文は二つの点からなるということで、全体会に持ってまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

それでは本日の審議結果は、次回の全体会で私からご報告させていただきたいと思います。本日の内容をまとめたものを全体会で報告するわけですが、まとめの作業について、細かいところを少し修正することもあると思います。その修正に関しては私に一任していただければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

それでは本日はどうもありがとうございました。これで第3回経営改革専門部会を終了します。次回からの全体会も何卒よろしくお願いいたします。

2 事務連絡

基本構想担当課長：それでは次回の全体会の開催についてご連絡いたします。

12月2日水曜日、午前10時から12時でございます。会場は中央館8階の特別会議室です。なお、ご欠席となる場合には、これまでと同様に電話やメール等で事前連絡をいただけますと幸いです。本日は誠にありがとうございました。机の下などお忘れ物のないようお願いしたいと思います。お車でお越しの方は、出口付近の係員にその旨お伝えください。どうもお疲れ様でした。

午後4時00分 閉会